



第 17 回キッズデザイン賞 過去最多の 26 点受賞

ポラスグループ

ポラスグループ(本社:埼玉県越谷市、代表:中内晃次郎)の各社が開発した以下の 26 点が、2023 年度キッズデザイン賞を受賞しました。キッズデザイン賞は「子どもたちが安全に、そして安心して暮らす」「子どもたちが感性や創造性豊かに育つ」「子どもを産み育てやすい社会をつくる」といった目的を満たす製品、サービス、空間などを顕彰するもので、ポラスグループの受賞は 5 年連続となります。昨年度は 13 点で受賞しました。



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞㈱中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部
「REASON 流山おおたかの森～悠景のヴィラ～」
各邸に地役権を設定し、園路のような「共用街路」を創出



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞㈱中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部
「Kinoe プロジェクト～つなぐ森のヴィラ～」
子どもを見守り、家族をつなぐ小さな森を内包する平屋のある「木の絵」の街



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞㈱中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部
「ベルフォート北本 つむぎの杜」
路地を抜けた先に広場のような空間を計画し、子どもの安全な居場所を創出



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞㈱中央住宅 戸建分譲設計本部設計一部
「SuBaGo プロジェクト～生物多様性のまちづくり～」
人だけでなく周辺に生息する生物との共生も図ったまちづくり



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞㈱中央住宅 戸建分譲設計本部設計二部
「自然との共生を考えたコミュニティ住宅『ヒュッゲの森再生プロジェクト』」
ヒュッゲの要素を街並み・住まい・コミュニティに取り入れ地域を含めた多様なコミュニティを育むまちづくり



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞㈱中央住宅 戸建分譲設計本部設計二部
「結美の丘」
10 年にわたる住民参加の景観活動によって、街の緑を育むプロジェクト



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞㈱中央住宅 戸建分譲設計本部設計二部
「共存デザインの庭と緑が繋ぐ街 レギオン獨協大学前」
樹木を中心にベンチや天然石でデザインした空間を複数棟で享受できる分譲住宅



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞ ㈱中央住宅 マインドスクエア事業部・ポラス㈱ 購買部

「マインドスクエア・収育スタイルズ」

片付けを通して、子どもも大人も豊かに暮らし育つ住まい



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ ㈱中央住宅 不動産ソリューション事業部 不動産開発部

「HITO-TO-KI ひととき BRAND」

子どもを孤独にしない、家族で過ごすひとときを笑顔でおくれる家



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ ㈱中央住宅 不動産ソリューション事業部 不動産開発部

「HITO-TO-KI PARK FRONT MATSUDO PREMIUM」

緑と街と人を繋ぎ、共存することでともに育っていく街



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞ 中央グリーン開発㈱

「ビルトインガレージを集めてつくるコミュニティ『BASE88@西新井』」

都心の分譲住宅における「玄関の位置」と「駐車場のあり方」に着目



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞ 中央グリーン開発㈱

「暮らしみまもりタウン」

子どもたちや家族の暮らしについて、みまもりをシェアする街



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ 中央グリーン開発㈱

「坪庭でつながるコミュニティ」

坪庭を中心として家族・居場所・ご近所・緑をつなぐ住まい



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ 中央グリーン開発㈱

「サイクルスペースを軸に考えた空間提案『BASE88@練馬光が丘』」

サイクルスペースを外構ではなく建物の一部として考え、子どもの安全と新動線を提案



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ 中央グリーン開発㈱

「土間リビングのある暮らし」

玄関からリビング、庭に伸びる土間空間を設け、子どもに多様な活動の場を提供



＜子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門＞ 中央グリーン開発㈱

「分譲住宅における照明計画の取り組み『灯かりのいえなみ協定』」

夜間、子どもたちが安心して過ごせるよう、外灯をつけることを約束ゴトにした取り組み



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ ポラスガーデンヒルズ㈱

「NOEN～溢れる緑とともに子どもを育む街～」

地役権などによって野山のような中におうちを点在させ、小路や広場も作った分譲地



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ ポラスガーデンヒルズ㈱

「おやまのある暮らし」

庭に設けた小さなおやまをよじ登ったり、寝転んだり、いろんな遊びが広がる暮らし



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ ポラスガーデンヒルズ㈱

「旅するキッチン～暮らしをソトに持ち出す～」

建物のウチ・ソトにキッチン进行け、子どもたちと食の関わりが新たな発見を生む家



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ ポラスガーデンヒルズ㈱

「自遊ライフを無限大に楽しむ家」

「つながり」と「余白」で、子どもも親も《自遊ライフ》を無限大に楽しめる家



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ ポラスガーデンヒルズ㈱

「RELA セントラルデッキのある暮らし」

住民同士の交流スペースとプライベート空間をバランスよく配置



＜子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門＞ ポラスガーデンヒルズ㈱

「ボーダレスな家」

家、庭、カーポートの3つの境界をなくし、自由な発想の暮らしを実現できる家



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞ ポラストウン開発㈱

「『KIZUKI の家』子育て夫婦の家事ラクの住まい」

屋根付き置き配スペースから、土間収納、キッチンまでの動線まで考えた家事ラクの家



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞ ポラストウン開発㈱

「コドモノセカイ～kotoco キッズスケールで作る街～」

小さな収納や部屋などキッズスケールで作った家。片付けの習慣ができる



＜子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門＞ ポラストウン開発㈱

「共有地で共助を育み、暮らしの中で自助を学ぶ家」

防災公園や家の中の様々な防災グッズによって、自助と共助を子どもが学ぶ



＜子どもたちを産み育てやすいデザイン部門＞ グローバルホーム㈱

「ゆりかごハウス～W ラジエーションシステムで安眠・安全・安心を～」

どこで遊んでいてもどこで寝てしまっても、安全・安心な家

本件に関するお問い合わせ先

ポラスグループ ポラス(株)コミュニケーション部 広報課

TEL:048-989-9151

REASON 流山おおたかの森～悠景のヴィラ～

㈱中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

所有意識の表れから敷地をフェンスで囲うことで建物裏側に発生する未利用地への解決策として、敷地境界を線ではなく面として捉え、各邸の敷地に地役権を設定することで、街を南北に骨格状に伸びる境界部の敷地に園路のような「共用街路」を創出しました。

共有街路へのコモンアクセスを標準化することで実現する、歩車分離による子どもの安全確保、コミュニティ醸成、石畳や木立による景観形成等、子どもを見守り育てる仕掛けをちりばめられた豊かな住環境を流山市おおたかの森の区画整理地に建つ 8 邸の分譲住宅において提案しました。



Kinoe プロジェクト～つなぐ森のヴィラ～

㈱中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

小さな森を内包するコンパクト平屋のある「木の絵」を描く街づくり。さいたま市の平屋 1 邸、2 階建 2 邸で構成した 3 邸の分譲地です。

従来は裏側の未利用地になりがちな箇所を有効活用して景観形成のコアとなる森のような「つなぐ庭」を街の中心に設計し、建物形状と街区中心の庭によって日照をコントロールしながら、森のような風景をつくり出しました。各住戸のつなぐ庭への開き方を 3 邸一体で設計し、子どもを見守り、家族間、家族同士のつながりを持てる安全な森を内包する街づくりです。

プライベート感のあるテラスやウッドベンチを設けた「寛ぐ庭」、多種多様な植栽や実のなる木、雨水タンクなど、庭の緑と関わる生活を提案しています。



ペルフォート北本 つむぎの杜

㈱中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

建物に沿って張り巡らせるように各邸から拠出した土地で共用路地をつくり、外構・建物のボリューム操作により子どもが安心して過ごせる広場のような空間を創出した、北本市の 10 邸の分譲地になります。

さらに近隣農家、造園業者、NPO 法人、事業者が共同でワークショッププログラムを路地沿道の外構に構築し子育てのしやすい環境提案しています。人と地域とのつながりを生み出す仕掛けともなる本プログラムは、住まいだけでなく地域ぐるみでの子育て環境をつくり出します。

2023 年 6 月に実施したワークショップでは近隣農家による野菜の寄せ植え講習が行われ、自然と触れ合う暮らしをライフスタイルに組み込む生活が始まっています。通路としての路地空間ではなく、そこが学びの場、コミュニティ形成の場として機能することを目指しました。



SuBaCo プロジェクト～生物多様性のまちづくり～

㈱中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

SuBaCo はサステナビリティ(持続可能性)、バイオダイバーシティ(生物多様性)、コミュニティ(界限性)の3つのテーマから導いたネーミングであり、生物多様性の視点を住宅地開発に取り入れる事で、大人も子供も自然との共生を楽しむプロジェクトです。

具体的には、船橋市の「生物多様性ふなばし戦略」の考え方に則り、生態調査の他、通風シミュレーション、緑陰設計も実施し、鳥や蝶を街に呼び込む仕掛けを随所に施しています。街の通風をよくするため、街区中央のフットパスによって区割りを行い、生物の好む実のなる中高木を多く植栽し、緑陰を設計。散水が簡単な雨水タンクや鳥の水飲み場も設けました。入居者向けにアプリを使用した生物多様性調査も定期的実施していく予定です。



自然との共生を考えたコミュニティ住宅『ヒュッゲの森再生プロジェクト』

㈱中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部

船橋市の全 78 邸の大型分譲地。エリアの風向を調査し、陽当たりだけではなくどの邸にも風が抜ける配棟計画を施しています。さらに、街区ごとに外観を変えることでリズムカルな街並みをデザインしました。

コミュニティを育む場として、ベンチや公園を配置するだけでなく、室内とつながるテラスや家庭菜園ができるポタジェを各邸に設けることで暮らしの中で自然に緑に触れ、家族だけではなく近隣住民を含めた多様なコミュニティが育まれる空間をデザインしています。

また、住民参加の植栽ワークショップも定期的開催しています。



結美の丘

㈱中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部

子供たちと街の緑を育む西大宮の 54 棟の分譲住宅。2011 年に、さいたま市第 1 号となる景観協定認可を受け、2013 年の入居開始以来 10 年にわたって、住民が主体となって街の景観を守る活動を実施しています。2022 年には、「グッドデザイン・ベスト 100」にも選出されました。

広場や緑道の植栽、各住戸で指定されたみんなの木や街路樹の一部は全住戸の共有持ち分として住民全員で管理。これにより、緑の育成を通して人々が集う機会が増え、みんなで守り育てるという一体感が生まれます。住民活動は家族連れでの参加が多く、全体の 4 割は子どもたちで構成され、特に 10 歳前後の参加が多いことが特徴です。協定樹木や高木の剪定は大人たちが、街の清掃は大人と子どもが共同で、花植えや下草植えは子供たちが主に行い、街の景観を維持続けています。



共存デザインの庭と緑が繋ぐ街 レギオン獨協大学前

(株)中央住宅 戸建分譲設計本部 設計二部

敷地の境界をシームレスにすることで、街の中心に空間を創出し、子どもたちが伸び伸びと遊べるようにデザインしました。8 棟の分譲地ですが、1～3 号棟の中心にゾーン A、3,4,6 号棟の中心にゾーン B、5,7,8 号棟の中心にゾーン C を配置し、それぞれのゾーンが南北でもつながれるように緑の空間を連続させた街並みを形成しています。境界という枠を超えて住民は気軽に交流し、子どもは走り回り、緑に触れ四季を感じる「広場のある街」となることを目指しました。

それぞれの住まいは核となる空間に対して玄関までのアプローチやリビングからの視線が集まるようになっており、井戸端会議のような交流が自然に生まれます。テラスや土間も設けました。



マインドスクエア・収育スタイルズ

(株)中央住宅 マインドスクエア事業部 ・ ポラス(株) 購買部

収納と育児・教育・育成を組み合わせた「収育®」を掲げ、収納の使いやすさを追求し、大人だけでなく子ども目線の使いやすさも提案。片付けが楽しくなる仕掛けづくりで、片付けの習慣化、整理整頓された快適な住空間を実現する分譲住宅です。

「収育®」のために、モノのアドレスを決める「適材適所の収納計画」、「スムーズな家事動線を作り自分の時間を増やす」、「新しい生活様式のための快適なプランニング」の 3 つのデザインポイントから 16 の収納メソッドを確立し、一般社団法人日本収納検定協会等、専門家のノウハウと引越前セミナー/入居後の「整理収納サービス」を取り入れて構築しました。



HITO-TO-KI ひととき BRAND

(株)中央住宅 不動産ソリューション事業部 不動産開発部

家族と過ごす時間を大切にする「ひととき」のための間取り提案と、「人と木」の居心地のいい空間を提案したブランド。

「ひととき」では子どもの居場所を作ることを柱とし、子どもを孤独にしないための配慮を随所に施しています。スタディーカウンターはリビングに配置することで、リビング学習ができ家族の気配を感じられます。

「ただいま。お帰り。」と会話が生まれるリビングアクセス階段。リビングが一番居心地がいいと感じられるスキップキッズフロア、リーディングヌックなどのキッズスペース。その他、セカンドリビング(主寝室+αの空間)やテラスバルコニー(広めのグランピングスペース)など様々な提案を行っています。



HITO-TO-KI PARK FRONT MATSUDO PREMIUM

(株)中央住宅 不動産ソリューション事業部 不動産開発部

緑と共存する 38 邸の街並みを創り子ども達が自然や四季、生き物などと触れ合うことで、豊かな想像力や感性を育む街。

玄関先には緑を計画し邸宅を覆った緑と一体化する街並みデザインになっています。緑豊かな風景を街に作る工夫もしており、四季折々に表情が変わる木々を植栽しています。

敷地に隣接する既存の公園を活かすことで街と調和する活気溢れる風景が生み出され、地域の人々にも愛される街並みを創出しました。



ビルトインガレージを集めてつくるコミュニティ「BASE88@西新井」

中央グリーン開発(株)

子どもたちの安全をビルトインガレージと協定道路で守る分譲住宅。玄関から道路への飛び出し事故を防ぐため、4 区画の敷地の一部をそれぞれ提供して協定道路を設けました。また、全邸の駐車場をビルトインガレージにし、協定道路を囲むように玄関と合わせて配置。外出時の子どもたちの安全と 4 世帯のコミュニケーションが促進される空間が生まれました。

協定道路には、カラー舗装の透水性アスファルトを採用。温度上昇を抑えると同時に、視覚的にも安全な場所が分かるように工夫しました。

ビルトインガレージを協定道路沿いに配置したことで、車が並ぶ光景から生じる無機質になりがちな分譲地の顔に、緑地空間を確保することができました。



暮らしみまもりタウン

中央グリーン開発(株)

子どもや家族の暮らしを防犯ツールや仕組みでみまもる街並みの提案。街区の入口を一か所にまとめ、各邸の視線が街の中心を向くよう配棟し、住民同士でみまもり合うような計画としました。

全邸にセンサーライト付きワイヤレスカメラを設置しており配置を工夫しました。子どもでも利用しやすいよう、押すだけで施錠できるみまもりリモコンも設定。

夜になると街は自動的に灯かりが点灯し、防犯や景観両面で優れた街並みです。入居者には『みんなの街のみまもり/灯かりのいえなみ協定』に同意いただき、防犯ワークショップを開催して浸透をはかりました。



坪庭でつながるコミュニティ

三方が広く開けた立地に計画した1棟の分譲住宅。そこに「プライバシー(閉じる)」と「コミュニティ(開く)」を両立した住宅をデザイン。核としたのは「坪庭」。プライバシーを守る坪庭は、家族・居場所・ご近所・緑をつなぐコミュニティの起点となります。親はどこからでも子供を見守ることができ、子どもはウチとソトを超えて、自由に動き回り、自然を感じ、人と出会い、多様な感性を育めます。

坪庭を借景として街並みに提供。そこにコモンベンチを設けることで、地域とのゆるやかな接点を生み出しました。

中央グリーン開発㈱



サイクルスペースを軸に考えた空間提案「BASE88@練馬光が丘」

中央グリーン開発㈱

大切な自転車の保管場所を作るため、従来は敷地の余った空間に作られることが多かったサイクルスペースを、外構の一部ではなく建物の一部として考え、子どもたちが安心して利用できる空間と新たな生活動線を提案。建物内に設計されたサイクルスペースにより、道路沿いに自転車が置かれることなく、緑豊かな街並みの景観も創出された分譲住宅。

【玄関横に屋内サイクルスペースの確保】

雨の日に濡れずに子どもを乗車させることができます。

【スロープの設置】

南側道路の建物では、ベビーカーや車いすでも押して上がれる幅の緩やかなスロープを配置しました。

【境界フェンスの排除】

隣地との圧迫感が軽減され、自転車を押す際も邪魔にならないようにしました。



土間リビングのある暮らし

中央グリーン開発㈱

全3棟の分譲住宅。リビングと庭の間に土間の中間領域を配置し、外部空間と生活空間を結びつけることを目指した空間を提案。玄関からリビング、庭に通じる土間空間を設け、子どもの多様な活動に対応する場となります。子どもの「すき」に合わせて変化する空間、そして庭がその延長として存在します。

土間とリビングはガラス扉で仕切っているほか、土間の外壁面には壁下地を入れており、自転車の壁掛けなど趣味の場としても活用できます。

玄関と一体の土間は、靴を履いたままの活動できる場所なので、外部的な空間性があり、子どもも活動的になりやすいというメリットもあります。



分譲住宅における照明計画の取り組み「灯かりのいえなみ協定」

中央グリーン開発㈱

街全体の灯かりが子どもたちの安全を見守る。夜間、分譲住宅地内の灯かりを灯すことを約束ごととした取り組みです。住民は住宅購入時に協定を締結し常夜灯の維持管理を行います。安全性だけではなく美しい景観も創出しています。

この協定では、自動的に点灯するライトアップ計画をルールとして採用しており、灯かりは明暗センサーによって自動的に点灯される仕組みです。

2004 年から始まった灯かりのいえなみ協定は、これまで 2 万棟以上のボラスの分譲住宅で採用されています。

グッドデザイン賞をはじめ、足立区防犯設計タウンの第1号取得や松戸市、流山市景観賞も受賞。第三者からも高い評価もいただいています。



NOEN～溢れる緑とともに子供を育む街～

子供たちが自然と人とのつながりを学び成長できる居場所をソにもウチにも設けた分譲住宅。歩車分離や地役権を設定するなどの手法を使って、野山のような中に住宅を配置し、その間を子供たちが伸び伸びと走り回れる通路や集まれる広場を作りました。親は各住戸や広場などから子供を近くで見守ることができます。

野山のような場を作るため、森で育った 200 本以上、20 種以上の多種多様な木々を植樹。住宅はゆとりをもって点在させ、境界はフェンスを省き法面処理で優しく繋ぎ、その余白を活用し広がりや風の流れを生む回遊性のある通路と広場を計画。

通路では緩やかな坂を子どもたちが走り、ブルーベリーの実を摘み、広場では親が見守るそばで遊ぶ。屋内からも遊ぶ子供が見え、庭へ出ていきたくするような窓の配置と大きさを工夫しました。

ボラスガーデンヒルズ㈱



おやまのある暮らし

残された自然と、敷地の広さ、高低差を活用しながら、プライベートとパブリックの間に自然樹形の木々をバランスよく配置し、自然・庭・家・人の関係を緩やかにつなげた分譲地。

庭には小さな丘を設けました。大人にとっては小さな段差でも、子どもにとっては立派なおやま。よじ登ったり、時には転げ落ちたりして子供が遊びや学びを発見できる住まいです。

残された自然は借景となり、道路と敷地の間の中間領域に植樹されたコネクツリーはつかずはなれずの程よい距離感を生み出しています。

ボラスガーデンヒルズ㈱



旅するキッチン～暮らしをソトに持ち出す～

非日常を日常に取り入れた分譲地の計画。ソト時間を積極的に楽しむ現代。住まいが旅先のような場所であればどうかと考えました。建物のウチソトにキッチン进行け、家族みんなが食に関われるようデザインしました。親が見守る中、子どもは自由にウチソトを行き来し、遊びや学びを発見。

分譲地中心に石畳のような保水性ブロックを採用した道路を作り、子どもが駆け回りたくなる通りをデザイン。建蔽率 40%・容積率 80%、風致地区指定という条件により、ゆとりある街区計画とした上、造園家とコラボし山採りの木を植樹。緑豊かな外部空間を実現しています。

室内にはアイランド型のキッチンを採用し、内部とつながるテラスを庭に設け、暮らしや遊びを外に持ち出せる空間としました。

ポラスガーデンヒルズ(株)



自遊ライフを無限大に楽しむ家

広い歩道や公園、緑が多い白井市。この子育てしやすい地域性を分譲地へも繋げ、「にぎわい・交流」を促進するような街づくりを目指しました。緊張感からの開放「リラックス」、自由な行動「アクティブ」、前向きな気持ち「ポジティブ」、自由な発想「クリエイティブ」。この 4 つの要素を掛け合わせることで、子どもたちに遊び心を掻きたたせる暮らし方の提案を考えました。

デザインのポイントは、①つながり(道と緑をつなげて新たな人の交流を生み出す)、②余白(建物配置やボリュームを調整し余白を作る)などで、下屋で空の余白を作ったり、ゆとりある隣等間隔を実現したり、サイドパスを作りました。

サイドパスは光と風が通り抜けるだけではなく、子どもたちが走り抜ける場ともなり、また新しいフットパスからは新たな人の流れも生まれました。

ポラスガーデンヒルズ(株)



RELA セントラルデッキのある暮らし

シンボルツリーとウッドデッキを中心とした 3 区画からなる分譲地。全区画 165 m²以上のゆとりある敷地を最大限に活かして、建物配置や植栽計画の工夫によりプライベートゾーンとコミュニティゾーンを明確に区分しました。

大きな木の下にあるウッドデッキは、子どもたちが駆け回ること交流が生まれ、適度な距離感を保てるプライベートな庭で一休み。住民は「木まま」な暮らしで近所関係を育みます。

街区の中心に共有地を設ける提案は昨今よく見かけますが、そのほとんどは共有地ありきで、プライベート性がないがしろにされがちです。本来はそれらがバランスよく存在することが望ましいと考え、本提案では、コミュニティの核となるセントラルデッキとプライベートな休息の庭を設けることで、その問題を解決しました。

ポラスガーデンヒルズ(株)



ボーダレスな家

シンプルな箱から始まる子どもの物語。従来からある「家」「庭」「カーポート」ではなく、連続的なつながりを意識した新たな舞台で、子どもは自由な発想、環境の変化に応じて暮らしのアレンジを楽しめます。広場のように人が集まったり、自分一人の場所を確保したり、お外とつながったり、車をリビング代わりに利用したりと自由自在に楽しめる家です。

多様化する家での過ごし方に対応できるように、アレンジが可能なLD空間を提案。フレームとシェードを設けることで、楽しみが広がる庭空間(ガーデンリビング)としています。

家、庭、カーポートを連続させることで、最大限に空間と用途の広がりを感じられる住宅を実現しました。

ポラスガーデンヒルズ(株)



「KIZUKIの家」子育て夫婦の家事ラクの住まい

住まいを通して子育て夫婦が気軽に家事ラクができ、大人も子どもも心地よい暮らしができる仕組みを作るという課題を解消した家。買い物家事の時短に注目。ママブロガーの中山あいこさんと宅配大手のパルシステムとともに開発。分譲地全体での食材宅配も考案しました。

課題を解決するために、①雨天時や防犯に配慮した置き配スペースを確保。②届いた荷物を最短でキッチンまで運べるよう動線を工夫。③キッチンのすぐそばにダイニングテーブルを配置し一次仮置き場としました。シンクと近い分、子どものお片付け促進にもつながります。④1年間、パルシステムの手数料を無料としました。中山あいこさん考案のずぼらクロゼットも採用。置き配スペースから土間収納、そこからずぼらクロゼットを通してキッチンまで一直線になっています。

ポラストウン開発(株)



コドモノセカイ〜kotoco キッズスケールで作る街〜

多くの住宅は大人に便利な寸法で設計され、子どもの身長では使いにくくなっています。そのため、片付けなどに対する感受性が高くなる2、3歳の時期に、片付けの習慣化が難しいのが現実です。そこでキッズスケールで作る街「コドモノセカイ」を作り、子どもたちの自由な遊びや、片付けが誘発されるようにしました。また子供たちに合わせた小さなスケールで部屋をつくることで、大人達にも自分だけの落ち着いた部屋が生まれるように設計しました。

子どもから見た世界は大人のものとは違い、収納の取っ手も高く開けにくいので、キッズストレージでは高さ90cm以下の引戸にしました。引戸なので子供もラク。またキッズスケールの小さな収納や部屋を分散することでたくさんの居場所を作りました。

子どもの自由な遊びを誘発するため、子どもの手の届く高さにマグネットウォールを設置。また大人と子供の目線が合うように段差を設け、同じ目線でコミュニケーションが取れるようにしました。

ポラストウン開発(株)



共有地で共助を育み、暮らしの中で自助を学ぶ家

子どもたちが日常生活で防災への意識を高め、普段の暮らしの中で自然と防災を学ぶことができる分譲地。中心には共有地となる公園を作り、共助につながるコミュニケーションの場としました。また家の中に防災対策を盛り込むことで、暮らしの中で自助の意識を高める住まいとしました。共助と自助を継続的に学べるよう住民の管理組合も結成。これらの構築に当たっては NPO 法人日本防災環境と(株)ユニソンの協力を得ました。

共助を育む公園には、救護所にもなる東屋・ソーラー付き LED 街路灯・収納ベンチ・かまどベンチ・AED・井戸など、災害時に防災拠点となる工夫を数多く盛り込みました。

各住戸には雨水タンク、感電ブレーカー、壁掛けテレビ下地、床下収納、ポータブル電源、保安灯、マグネットボード、ポタジェ、家具固定下地と家具配置、土間収納など自然と自助が学べるよう様々な工夫を施しました。

ポラスタウン開発(株)



ゆりかごハウス～W ラジエーションシステムで安眠・安全・安心を～

小さな子どもが、どこで遊んでいてもどこで寝てしまっても、みんなが安全・安心な家。おうち時間が多い新生児～乳幼児期は室内環境を快適に保ちつつ、安全性も確保したいもの。そのようなニーズに応え、断熱材やサッシを高断熱仕様にし、蓄熱型床暖房や放射式冷暖房＝「W ラジエーション(輻射・放射)システム」を設置。家中どこでも快適で、子どもの安全と親の安心との両方を兼ね備えた、まるで「ゆりかご」のような家です。

高断熱仕様の住宅による大きなワンルーム空間は、子どもは見守られながら好きなところで遊んで眠って、親は子どもの気配を感じ、見守ることができます。

グローバルホーム(株)

